

2024（令和6）年度

地域連携センター一年報

津市立三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I 令和6年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1 生涯学習機会の提供		
(1) オープンカレッジ	・・・	2
(2) 地域連携講座	・・・	7
(3) みえアカデミックセミナー2024	・・・	9
(4) 出前講座	・・・	10
(5) プログラミング講座	・・・	11
(6) 講座開催一覧	・・・	12
(7) 国家試験対策講座	・・・	14
(8) 科目等履修生制度	・・・	15
2 高等学校等との連携		
(1) 高大連携校との高大連携事業	・・・	16
(2) 高大連携校文章作成講座	・・・	19
(3) 高大連携協定調印	・・・	20
3 産学連携の推進		
(1) 株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携	・・・	21
(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用	・・・	25
(3) ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定締結	・・・	26
4 市政との連携		
(1) 政策研究・研修	・・・	27
(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	32
(3) 審議会、委員会委員への参画	・・・	34
5 地域の大学との連携		
(1) 三重大学生物資源学部との連携	・・・	41
(2) コンソーシアムみえとの連携（単位互換）	・・・	41
6 学生による地域連携		
(1) 地域連携サポーター制度	・・・	42
(2) 津市消防団学生機能別団員	・・・	42
(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	43
(4) 美化デー	・・・	44
(5) 榊原の地域振興を考える会との連携	・・・	44
II 資料		
1 施設開放	・・・	45
2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	47
3 令和6年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	53

地域連携センター事業を振り返って

地域連携センター長 石原 洋介

本学は津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げ、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長と担当事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講する他、「出前講座」も実施している。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月の第一土曜日に各日2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、本学の教員がコーディネーターとなって学外から講師を招き、市民の方が興味を持つようなテーマを専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年2回開催している。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は2008年3月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高校と、同6月に三重県立相可高校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高校および三重県立久居高校と、2022年3月に三重県立津東高等学校と連携協定を締結し、2024年には3月に三重県立四日市農芸高校と、8月には三重県立飯野高校と新たに高大連携協定を締結した。一方、株式会社三十三総研（旧三重銀総研）とは産学連携協定を締結し、本学との共催で学生を対象とした「小論文コンクール」を2007年から毎年開催している。2016年度より「小論文・作品コンクール」と名称を変更し、レシピやデザインでの応募も可能になったことから、いずれの学科の学生も参加しやすい形態となり、毎年多数の学生が小論文や作品を応募している。また、「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、2016年度には、三重県内の13高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」が設立され、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの活動は拡大しているが、同時に教員の負担も増している。不断に活動内容を見直し、教員負担を調整しながら、地域の期待に応えられるよう活動を発展させていきたい。

2025年6月

I 令和6年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、令和6年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952(昭和27)年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008(平成20)年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。そして平成30年度からは、小中学生向けに「プログラミング講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

その他、地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座と位置づけ、本学卒業生および一般市民を対象とした「社会福祉士国家試験対策講座」「栄養管理士国家試験対策講座」を開講した。

(1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 心理学的観点から道徳について考える

- ① 開催日時 令和6年7月6日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 私たちは善悪をどのように判断しているのでしょうか。犯罪や社会的迷惑行為、思いやりや援助行動など身近な話題を通して、心理学の観点から道徳的判断の起源や個人差を解説します。
- ④ 参加者数 55名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 高橋 彩



イ 最低賃金制度の概要と課題

- ① 開催日時 令和6年7月6日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 2023年に初めて最低賃金（全国加重平均）の額が1000円を超え、それが大きく報じられたことにより、最低賃金について関心をもたれた方も多いのではないのでしょうか。そこで、本講座では、昨年の三重県における審議に出席した自己の経験も踏まえ、最低賃金制度について、みなさまとともに考えます。
- ④ 参加者数 55名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 西川昇吾



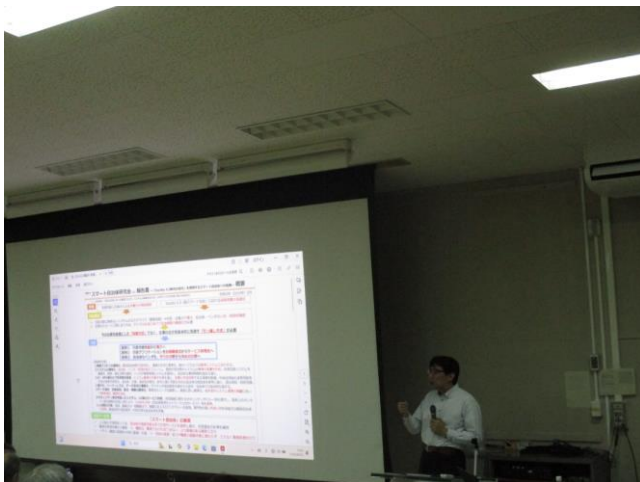
ウ 都市計画とまちづくり～コンパクトシティの形成に向けて～

- ① 開催日時 令和6年8月3日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりについてやさしく紹介します。
- ④ 参加者数 51名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 小野寺一成



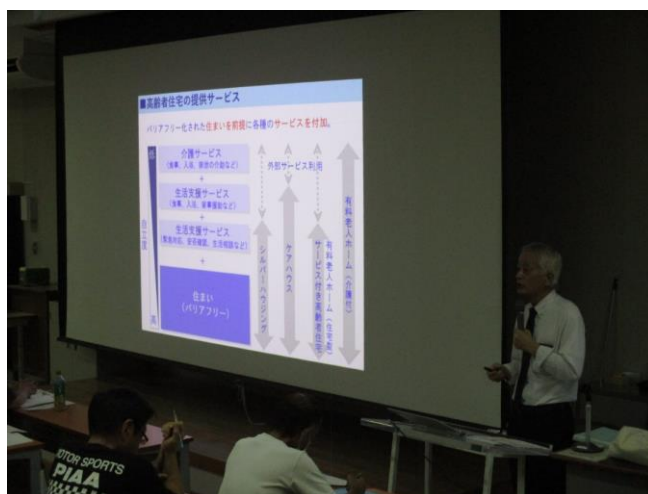
エ 行政デジタル化の現状と課題

- ① 開催日時 令和6年8月3日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 現在、行政改革の一環として行政のデジタル化が進められています。デジタル化によって私たちの生活はどう変わるのか。デジタル化の現状と課題について考えます。
- ④ 参加者数 58名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 川上 哲



オ 高齢者の住まい

- ① 開催日時 令和6年9月7日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 高齢化が進み、高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯も増えていきます。高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら、安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。
- ④ 参加者数 57名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 木下誠一



カ 「人新世（じんしんせい）」について考える

- ① 開催日時 令和6年9月7日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 わたしたち人類の活動が、第6次大量絶滅につながりかねない地球環境の激変をもたらしつつあることへの懸念から、今や人類の未来を語る上で必須のキーワードとなった「人新世」について、考えていきます。
- ④ 参加者数 51名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 南 有哲



キ 「失われた30年」からの脱却なるか—働き方の推移を中心に—

- ① 開催日時 令和6年10月5日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 コロナ禍を経て少子高齢化と人手不足がいよいよ本格化し日本のビジネスモデルは見直さざるを得ない状況です。「失われた30年」の痛手から日本は脱却できるのか、私たちの働き方を通じて探ってみたいと思います。
- ④ 参加者数 52名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 浅野和也



ク 味を感じる仕組み

- ① 開催日時 令和6年10月5日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 食べ物の味には5つの基本味（甘味、苦味、うま味、酸味、塩味）があります。これらの味を感じる仕組みについてお話しします。また、基本味以外の味に関しても最近の研究に触れながら解説します。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員及び講師 食物栄養学科 助教 生田李緒



ケ 高齢期の食事と健康増進

- ① 開催日時 令和6年11月2日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 高齢者が健康を維持、増進するためには、どのような食生活を送ればよいのでしょうか？栄養素や食事について解説しながら、健康的な食事づくりを実践するために、高齢者でも作ることができるレシピも紹介します。
- ④ 参加者数 65名
- ⑤ 担当教員及び講師 食物栄養学科 助教 服部知美



コ 日本の金融政策とインフレーション

- ① 開催日時 令和6年11月2日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 通貨の番人たる日本銀行は、昨今のインフレに積極的に対処せず、（現時点では）新日銀総裁の下でも大規模金融緩和を継続しています。講座では金融政策とインフレの関係、それに対する日銀のスタンスを解説します。
- ④ 参加者数 58名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 石原洋介



(2) 地域連携講座

ア スポーツ科学からみたウォーキング・登山の魅力と安全管理について

- ① 開催日時 令和6年7月28日（日）午後1時30分～午後3時00分
- ② 会場 41教室
- ③ 内容 ウォーキングと登山は、多くの方々に楽しまれている身体活動です。行う時間、場所、季節、人数等を少し変えるだけで、楽しみ方はいくらでも増えます。無理のない方法で実施すれば、長く続けることもできます。一方、方法を誤ると、致命的な事態につながる場合があります。本講演では、スポーツ科学（特に、運動処方、食事・栄養指導、緊急時の心理学的応答）の観点から「ウォーキング」と「登山」の安全管理や望ましい方法論等を考え、新たな視点からそれらの魅力を感じていただきたいと思います。
- ④ 参加者数 53名
- ⑤ 講師 高木祐介（公立小松大学 学長補佐、
保健医療学部 看護学科 教授、博士(健康科学)）
- ⑥ 担当教員 食物栄養学科 教授 駒田亜衣



イ 持続可能な未来社会の可能性切り開く有機農業や”農”的な市民生活

① 開催日時 令和6年8月31日(土)午後1時30分～午後3時00分

※台風の為延期 令和6年11月30日(土)実施

② 会場 41教室

③ 内容 大量生産・大量消費型の資本主義が成長の限界にぶつかり、深刻な地球環境問題や格差の拡大、戦争などが相次ぐなかで、有機農業に取り組む農家や「農的な生活」を楽しむ市民、地域での有機の学校給食や里山の復活を基盤とした地域の活性化などが広がっている。それらの活動のいくつかの事例を紹介するとともに、それらが持続可能な未来社会へとつながっていく可能性について参加者とともに考える。

④ 参加者数 31名

⑤ 講師 松田文雄(ソイル・コミュニケーション合同会社代表社員、奈良女子大学特任教授)

⑥ 担当教員 法経科 教授 大畑智史



(3) みえアカデミックセミナー2024

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。(※担当者会議資料(三重県生涯学習センター作成)等から)

- ① 開催日時 令和6年8月8日(木)午後1時30分～午後3時20分
- ② 会場 三重県総合文化センター レセプションルーム
- ③ 内容 講演 演題 腸内細菌叢とは何か
- ④ 概要 腸内細菌叢とはヒトの腸内に生息している細菌群で、ヒトの健康に関与していることが認識されてきた。最近ではこの腸内細菌叢に注目した「腸活」という言葉も生まれ、注目度は高くなってきた。
しかしながら、この腸内細菌叢が何をしているのか知らない人が多い。そこで今回は腸内細菌叢の基礎的な知識について述べていく。
- ⑤ 参加者数 75名
- ⑥ 担当教員 食物栄養学科 助教 福安智哉



(4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の令和6年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア 私たちの生活と「働く」こと

- ① 開催日時 令和6年7月10日（水）午後5時30分～午後6時30分
- ② 会場 尾鷲高等学校定時制
- ③ 参加者数 37名
- ④ 担当教員 法経科 准教授 浅野和也

イ 競技力向上のための栄養

- ① 開催日時 令和6年9月3日（火）午後3時20分～午後4時10分
- ② 会場 名張青峰高等学校
- ③ 参加者数 28名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 准教授 相川悠貴

ウ 世界の食事パターンと疾患との関連について

- ① 開催日時 令和6年9月11日（水）午後1時30分～午後3時10分
- ② 会場 片田公民館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 阿部稚里

エ 「人新世」について考える

- ① 開催日時 令和6年11月2日（土）午前9時00分～午前10時20分
- ② 会場 旧明村役場
- ③ 参加者数 0名（受講者0名の為中止）
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 南 有哲

オ 景観計画とまちづくり

- ① 開催日時 令和6年12月20日（金）午前9時00分～午前11時30分
- ② 会場 アスト津
- ③ 参加者数 50名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 小野寺一成

カ 自分に必要な栄養量を考える

- ① 開催日時 令和7年1月8日(水) 午後2時00分～午後4時00分
- ② 会場 中央公民館ホール
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 講師 杉野香江

キ 消費税の性質を理解する

- ① 開催日時 令和7年3月15日(土) 午前10時00分～午前11時30分
- ② 会場 アスト津
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 法経科 教授 大畑智史

(5) プログラミング講座

平成30年度より、小学校4年生から中学校2年生までを対象に、Scratchを用いた初心者向けプログラミング講座を開設している。なお本講座は、児童・生徒を対象とした講座であることから新型コロナウイルス感染症拡大の恐れに対してより慎重な対応が必要と考えられるため中止していたが、令和5年5月5類感染症への移行に伴い、令和5年度より再度実施することとなった。

今年度は担当教員である笠浩一朗准教授が在外研修に出たため、未実施となった。

(6) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	心理学的観点から道徳について考える	7月6日(土)	41番教室	55
	最低賃金制度の概要と課題	7月6日(土)	41番教室	55
	都市計画とまちづくり～コンパクトシティの形成に向けて	8月3日(土)	41番教室	51
	行政デジタル化の現状と課題	8月3日(土)	41番教室	58
	高齢者の住まい	9月7日(土)	41番教室	57
	「人新世(じんしんせい)」について考える	9月7日(土)	41番教室	51
	「失われた30年」からの脱却なるかー働き方の推移を中心にー	10月5日(土)	41番教室	52
	味を感じる仕組み	10月5日(土)	41番教室	49
	高齢期の食事と健康増進	11月2日(土)	41番教室	65
	日本の金融政策とインフレーション	11月2日(土)	41番教室	58
地域連携講座	スポーツ科学からみたウォーキング・登山の魅力と安全管理について	7月28日(土)	41番教室	53
	持続可能な未来社会の可能性切り開く有機農業や”農”的な市民生活	11月30日(土)	41番教室	31
みえアカデミックセミナー	腸内細菌叢とは何か	8月8日(木)	三重県文化会館 レセプションルーム	75
出前講座 (高大連携 事業を除く)	私たちの生活と「働く」こと	7月10日(水)	尾鷲高校定時制	37
	競技力向上のための栄養	9月3日(火)	名張青峰高校	28
	世界の食事パターンと疾患との関連について	9月11日(水)	片田公民館	30

	「人新世」について考える	11月2日(土)	旧明村役場	0
	景観計画とまちづくり	12月20日(金)	アスト津	50
	自分に必要な栄養量を考える	1月8日(水)	中央公民館	40
	消費税の性質を理解する	3月15日(土)	アスト津	15
出前講座 (高大連携 事業)	解剖生理学実験、深部感覚、反応速度	11月21日(木)	相可高等学校	40
	製菓実習(相可教員)	12月11日(水)	三重短期大学	38
	自分に必要な栄養量を知ろう	9月9日(火)	四日市農芸高校	16
	調理実習	9月10日(火)	四日市農芸高校	18
	実習実験	2月10日(月)	四日市農芸高校	16
	知っておきたい契約に関するルール	3月6日(木)	飯野高校	100

(7) 国家試験対策講座

令和3年度より、国家試験受験を希望する本学卒業生を対象に、受験対策や専門分野の知識の向上を目的とした「管理栄養士国家試験対策講座」「社会福祉士国家試験対策講座」を開講した。本学を希望する高校生等に対し、実務経験により管理栄養士及び社会福祉士免許取得を目指す卒業生をサポートする取り組みを実施紹介することで、より本学に関心を持ってもらうことも開講する目的の一つでもある。また、地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座にも位置付けられる。

ア 管理栄養士国家試験対策講座

① 開催日時 令和6年9月27日(金)～11月8日(金)

17:50～19:20、19:30～21:00

② 会場 三重短期大学

③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	科目名	講義内容	講師
9月27日 (金)	24	基礎栄養学・応用 栄養学	①基礎栄養学	相川悠貴
	24		②応用栄養学	相川悠貴
10月11日 (金)	23	人体の構造と機能及 び疾病の成り立ち	①生化学	杉野香江
	23		②解剖生理学・病態学	杉野香江
10月25日 (金)	20	臨床栄養学	①臨床栄養学Ⅰ	石橋智奈美
	20		②臨床栄養学Ⅱ	石橋智奈美
11月8日 (金)	21	食べ物と健康	①栄養教育論	阿部稚里
	21		②食品学各論・食品衛生学	飯田津喜美

イ 社会福祉士国家試験対策講座

① 開催日時 令和6年9月6日(金)～10月11日(金)

17:50～19:20、19:30～21:00

② 会場 三重短期大学

③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	講義内容	講師
9月6日 (金)	9	①社会福祉の原理と政策	田中武士
	9	②社会保障	田中武士
9月20日 (金)	9	①心理学と心理的支援	高橋 彩
	9	②貧困に対する支援	北村香織
9月27日 (金)	9	①障害者福祉	北村香織
	9	②権利擁護を支える法制度	北村香織
10月11日 (金)	7	①社会学と社会システム	武田誠一
	7	②タクソノミーⅡ・Ⅲ型事例問題対策	武田誠一

(8) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成8年度より実施している。

満18歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と1単位当たりの費用が必要となる。

令和6年度の科目等履修生は、前後期あわせて7名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語講読などの語学系科目から法経科の専門科目まで幅広く選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする方や現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前 期)

科 目	単位	人数
経済原論	4	1
経済政策	2	1
民法 I	4	1
家族法	4	1

(後 期)

科 目	単位	人数
政治思想史	2	1
国際関係論	2	1
経済学史	2	1
地方自治法	2	1

(通 年)

科 目	単位	人数
英語講読	2	1
英会話	2	1
実用英語	2	1
ドイツ語 II	2	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、三重県立飯野高等学校と新たに高大連携協定を締結した。また、連携協定を締結している三重県立相可高等学校、三重県立四日市農芸高等学校、三重県立飯野高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高大連携校との繋がりを強化する地域連携事業として高大連携協定締結校（津東、久居、津商業、亀山、相可、みえ夢学園、四日市農芸）を対象とした「文章作成の技法と実践」小論文対策講座を本学にて実施した。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア 四日市農芸高等学校高大連携大学見学（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 令和6年7月3日（水）午前9時00分～午後12時00分
- ② 場 所 三重短期大学
- ③ 内 容 大学見学
- ④ 対 象 四日市農芸高等学校生活文化科食物経営コース2年生20名、教員2名



イ 四日市農芸高等学校出張講義（会場：四日市農芸高等学校）

- ① 日 時 令和6年9月9日（月）午後0時40分～午後1時30分
- ② 講 師 食物栄養学科 講師 杉野香江
- ③ 内 容 自分に必要な栄養量を知ろう！
- ④ 対 象 四日市農芸高等学校生活文化科食物経営コース2年生16名

ウ 四日市農芸高等学校出張実習（会場：四日市農芸高等学校）

- ① 日 時 令和6年9月10日（火）午前9時05分～午前11時55分
- ② 講 師 食物栄養学科 教授 阿部稚里
食物栄養学科 講師 飯田津喜美
- ③ 内 容 三重県の郷土料理
- ④ 対 象 四日市農芸高等学校生活文化科食物経営コース3年生18名

エ 相可高等学校出張講義（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 令和6年11月21日（木）午前10時30分～午後0時10分
- ② 講 師 食物栄養学科 准教授 相川悠貴
- ③ 内 容 解剖生理学実験、深部感覚、反応速度
- ④ 対 象 相可高等学校食物調理科1年生40名

オ 相可高等学校との高大連携講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 令和6年12月11日（水）午前10時30分～午後1時35分
- ② 場 所 三重短期大学 調理実習室（15教室）
- ③ 講 師 相可高等学校 園部かしこ先生
- ④ 内 容 調理学実習Ⅱ 製菓講座 フルーツロール
- ⑤ 対 象 食物栄養学科1年生38名



カ 四日市農芸高等学校出張実験（会場：四日市農芸高等学校）

- ① 日 時 令和7年2月10日（月）午前9時00分～午前11時00分
- ② 講 師 食物栄養学科 助教 福安智哉
食物栄養学科 助教 生田李緒
- ③ 内 容 色素について学ぼう
- ④ 対 象 四日市農芸高等学校生活文化科食物経営コース2年生16名

キ 飯野高等学校出張講義（会場：飯野高等学校）

- ① 日 時 令和7年3月6日（木）午後5時35分～午後7時10分
- ② 講 師 法経科 講師 照井遥瑛
- ③ 内 容 知っておきたい契約に関するルール
- ④ 対 象 飯野高等学校定時制100名

(2) 高大連携校対象小論文対策講座

- ① 日 時 令和6年8月19日（月）午後1時00分～午後3時00分
令和6年8月23日（金）午後1時00分～午後3時00分
- ② 講 師 法経科 教授 古畑 淳
- ③ 場 所 三重短期大学 校舎棟 12教室
- ④ 内 容 「文章作成の技法と実践」小論文対策講座
- ⑤ 対象校 高大連携協定締結校（津東、久居、津商業、亀山、相可、みえ夢学園、四日市農芸）
- ⑥ 受講者 15名



(3) 高大連携協定調印

今年度新たに三重県立飯野高等学校との高大連携協定を締結し、調印式を行った。

ア 協定締結式

- ① 日 時 令和6年8月21日（木）午後3時～
- ② 場 所 三重短期大学 演習室1
- ③ 出席者 飯野高等学校 校長 今高成則
三重短期大学 学長 村井美代子

イ 協定の概要

- ① 教育の連携
- ② 学生・生徒間の交流
- ③ その他



3 産学連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行（現・株式会社三十三銀行）及び株式会社三重銀総研（現・株式会社三十三総研）は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三十三総研より講師を招いた「企業論（起業論）」開講等の連携事業を実施した。また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三十三総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三十三総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

人口問題へのアプローチ～私たちが考える新たな未来図～

③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

令和6年7月1日～令和6年12月2日

⑥ 選考委員

委員長	三重短期大学	学長	村井美代子
委員	三重短期大学	法経科	教授 石原洋介
委員	三重短期大学	法経科	教授 大畑智史
委員	三重短期大学	食物栄養学科	講師 杉野香江
委員	三重短期大学	生活科学科	准教授 田中武士
レシピ部門審査	三重短期大学	食物栄養学科	講師 飯田津喜美
レシピ部門審査	三重短期大学	食物栄養学科	助教 生田李緒
デザイン部門審査	三重短期大学	生活科学科	教授 小野寺一成
デザイン部門審査	三重短期大学	生活科学科	教授 木下誠一

⑦ 応募作品（タイトル名）

人口問題

漁業の維持に向けて-島根県と三重県の比較-

銀杏が生みだす持続可能な市の発展への可能性

～地域活性化と少子高齢化問題解決に向けて～

介護問題の現状と未来～地域連携と支援体制へのアプローチ～

地方創生に向けた一考察～東京一極集中の是正を中心として～

人口減少による人手不足と過労死

扶養の壁が労働力不足に及ぼす影響

少子高齢化に対する保険会社の役割について

人口問題と金融

子どもを育てやすい国にするには

人口問題解決への取り組み

未来につなげるお茶文化

「労働者性」の検討-働きやすく、生活しやすい環境を目指して

フルーツで解く美容と健康

日本最低賃金をもたらす地域間格差との課題について

日本の年金制度の歴史と問題点 また、自分たちは将来受給できるのか？

人口現象下における関係人口と価値循環 三重県における可能性

高齢化社会とどう向き合っていくべきか

飢餓・過疎化を引き起こす地域格差の一因と解消するための課題について

—最低賃金の観点から考える

育児休暇の取りやすい環境

日本の空家問題対策に期待される地方銀行の役割

さあ！賑やかにいただく孫はやさしい朝ごはん

ずっしりかぼちゃクリームのもっちりマフィン

お子様せいろプレート みんな大好き、おかず蒸しパンと蒸し野菜肉巻きセット

休日のキャベツクーヘン～家族団らんの溢れる社会を目指して～

4種のひとくちソフト乾パン

アレルギー対応スイーツラブボアーズ

冬野菜たっぷり紫芋のシチュー

ポリ袋で完成！野田あられチャウダー

パステル津ぎようざ

高齢者施設を変える

(全 31 作品)

⑧ 選考結果

【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
石田 幸椰	人口減少下における関係人口と価値循環 三重県における可能性	法経科第2部	小論文

【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
片寄 結斗	漁業の維持に向けて-島根県と三重県の比較-	食物栄養学科	小論文

【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
上村 奏音 吉永 和奏	パステル津ぎょうざ	食物栄養学科	レシピ
小嶋 梨央 波多野アンジェラ恵 細江 健太	地方創生に向けた一考察 ～東京一極集中の是正を中心として～	法経科第1部 経商コース	小論文

【新人賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
辻下 愛果莉 寺西 ゆい	ポリ袋で完成！野田あられチャウダー	食物栄養学科	レシピ

【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
杉原 翔太	銀杏が生み出す持続可能な市の発展への可能性 ～地域活性化と少子高齢化問題解決に向けて～	食物栄養学科	小論文
久保 美友	日本の空家問題対策に期待される地方銀行の役割	法経科第1部 経商コース	小論文
小澤 優菜	未来につなげるお茶文化	食物栄養学科	小論文

【奨励賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
赤島 渚彩 橋本 くるみ	アレルギー対応スイーツラブボアーズ	食物栄養学科	レシピ

⑨ 表彰式

日 時 令和7年1月23日（木）午後2時～午後3時

場 所 三重短期大学 校舎棟4階41教室

表彰者 三重短期大学学長 村井美代子

株式会社 三十三総研 代表取締役社長 東海 悟

講 評 津市 副市長 南条弥生

司 会 三重短期大学法経科 教授 石原洋介



(表彰式)

イ 三十三総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論（起業論）

（専修第二（経済・経営）分野 前期 火曜日5－6限目 受講者数48名）

② 講 師 山川 敏

（株式会社三十三総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント）

③ 講義のねらい

株式会社三十三総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1) 起業の意義と外部環境把握①
- ・ 同 (2) 外部環境把握②
- ・ 同 (3) 外部環境把握③と仮説①
- ・ 同 (4) 外部環境把握④と仮説②
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究 (1) 新製品の考察
- ・ 事例研究 (2) 新サービスの考察
- ・ 起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察
- ・ 自分研究：自分の特長、やってみたいこと
- ・ 経営理念の立て方：基本理念と行動理念
- ・ マーケティングと経営戦略 (1) 意義
- ・ 同 (2) 勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り (1) B/S と P/L の仕組み
- ・ 決算書の見方と資金繰り (2) 資金繰表の作成と検証
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科石原洋介教授（地域連携センター長）の内容

石原 洋介 (いしはら ようすけ)

職名	法経科 教授
授業科目	金融論、国際経済論
キーワード	グローバル化、国際金融、フェアトレード、日本の金融政策
研究テーマ	グローバル化における国際金融システムの不安定化に関する研究 日本銀行の異次元金融緩和の持続可能性について フェアトレードの広がりとは貧困削減 WTO の機能不全と FTA による自由貿易の拡大は日本経済に何をもたらしたか
研究テーマの応用例	グローバル化と経済格差、それを解決する手段としてのフェアトレード FTA、TPP 締結と日本経済の今後 金融緩和はデフレ脱却に対し有効な金融政策なのかの研究
最近の研究業績	[論説] ・ 「TPP が脅かす食の安全」 三重法経 第 149 号 2017 年 ・ 「TPP に対する危惧～SPS の観点から～」 三重法経 第 143 号 2014 年 ・ 「サブプライム危機が示した新自由主義金融の限界」 三重法経 第 141 号 2012 年 ・ 「チェンマイ・イニシアティブのマルチ化について」 三重法経 第 139 号 2011 年 ・ 「グローバル金融危機の中の東アジア経済」 唯物論と現代 44 2010 年 ・ 「東アジアにおける金融安定化への課題」 地研年報 第 13 号 2008 年 [共著] ・ 櫻谷勝美・野崎哲哉編『新自由主義改革と日本経済』三重大学出版会 2008 年 第 10 章
最近の社会的活動	[講演] ・ 三重短期大学オープンカレッジ「日銀の金融政策の限界～異次元の金融緩和の功罪～」 2021 年 7 月 3 日 ・ 久居高校出前講座「フェアトレードの挑戦」 2020 年 1 月 29 日 (久居高校) ・ 三重短期大学オープンカレッジ「TPP はなぜ不成立になったのか」 2017 年 10 月 7 日
メッセージ	経済学とは人々を幸せにできる経済の仕組みを追求する学問だと思います。今日、世界的な格差拡大をもたらした新自由主義経済に対抗する経済学の構築は急務であり、自分のテーマとしています。

(3) ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定締結

平成30年6月に津市との間で締結した包括連携協定に基づき株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブはバレーボールを始めとするスポーツ活動を通じた取組を進めており、2021年の三重とこわか国体（新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置により中止）を迎え、国体女子バレーボール開催地である津市地域と一体となったスポーツ振興に係る連携を進めることから、三重短期大学とヴィアティン三重女子バレーボールクラブは、スポーツ活動を通じ、教育・人材育成及び地域の活性化を推進することを目的に連携協定を締結した。

連携協定締結にあたり、校舎棟1階玄関正面に「ヴィアティン三重女子バレーボール」応援掲示スペースの設置を行い、選手パネル・ユニフォームの年度更新などを行っている。

令和6年度は、連携協定に基づき、食物栄養学科教員による調理実習及び栄養指導を実施した。また、大学祭にブース参加していただくなどの交流を図った。

ア ヴィアティン三重女子バレーボールチーム調理実習(会場：三重短期大学15教室)

- ⑤ 日時 令和6年5月11日（土）午前11時00分～午後2時00分
- ⑥ 講師 食物栄養学科 講師 飯田津喜美
食物栄養学科 准教授 相川悠貴
- ⑦ 内容 食事の基本指導、調理実習
- ⑧ 対象 ヴィアティン三重女子バレーボールチーム所属選手15名



イ ヴィアティン三重女子バレーボールチーム栄養指導(会場：三重短期大学12教室)

- ⑤ 日時 令和6年8月10日（土）午前11時00分～午後0時00分
- ⑥ 講師 食物栄養学科 准教授 相川悠貴
- ⑦ 内容 疲れにくい身体をつくる栄養摂取について
- ⑧ 対象 ヴィアティン三重女子バレーボールチーム所属選手18名



4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりるとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

② 研修テーマ、指導教員及び研修生

(1) テーマ いのちを守る居場所としての公共図書館機能に関する研究

指導教員 生活科学科 准教授 田中武士

研修生

NO	氏名	所属
1	川上友紀	津市 健康福祉部 健康づくり課
2	ジョスリン桂	津市 健康福祉部 こども家庭センター
3	石倉聖也	津市教育委員会 学校教育部 人権教育課
4	中澤利美	津市教育委員会 教育総務部 津図書館
5	亀田麻紀子	津市教育委員会 教育総務部 津図書館

- (2) テーマ 「個別避難計画」策定の課題の検証
 地域福祉を基盤とした防災を考える

指導教員 生活科学科 教授 武田誠一

研修生

NO	氏名	所属
1	廣田航平	東員町 総務課

③ 研修期間

令和6年6月28日から令和7年3月21日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

研修生が、指導教員による指導の下、先進地視察を含む具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 成果報告会

(1) いのちを守る居場所としての公共図書館機能に関する研究

- ・ 日 時 令和7年3月21日（金）午後3時30分～午後4時30分
- ・ 場 所 三重短期大学 管理棟2階 演習室1
- ・ 内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・ 主な参加者

研修生及び担当教員、

津市教育委員会事務局学校教育部人権教育課長、人権教育課主幹、

津市健康福祉部健康づくり課保健指導担当副参事、

津市健康福祉部子ども家庭センター長、久居ふるさと文学館長、

三重短期大学学長、事務局長、地域連携センター長、学生部長 ほか



(2) 「個別避難計画」策定の課題の検証 地域福祉を基盤とした防災を考える

・日 時 令和7年3月21日(金) 午後1時30分～午後2時30分

・場 所 三重短期大学 管理棟2階 演習室1

・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答

・主な参加者

研修生及び担当教員、

東員町総務課防災対策室長、東員町総務課防災対策室消防防災支援員、

三重短期大学学長、事務局長、地域連携センター長、学生部長 ほか



⑥ 研究・研修計画

【研究・研修計画書】①

テーマ	
	いのちを守る居場所としての公共図書館機能に関する研究
コーディネーター	
	田中武士
テーマ解説	
	<p>2015年8月末、鎌倉市図書館の職員によるTwitter（現X）への投稿が話題となった。その内容は、「学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館にいらっしやい」などと呼びかけるもので、そのメッセージへの賛意を示す反応が多くあった。これは長らく児童生徒（小中高生）の国内の自殺者数が8月に最も多くなる実態を踏まえてのものであると思われるが、身近にある公共図書館が子どもの居場所の一つとなりうると認識されている可能性を示すものであろう。現在、学生・生徒等（小中高生、大学生、専門学校等すべて）の自殺の実態はますます深刻化している。自殺に至る要因は複合的あるが、孤立や孤独など主観的、個人的要因とされがちなものも社会環境との関係性を無視することはできない（「健康の社会的決定要因」）。</p> <p>そこで本研究では、現代社会における孤立や孤独というキーワードを念頭に置き、いのちを守る居場所としての公共図書館機能の可能性について追究する。</p>
研究計画等	
	<p>1. 文献調査と討議</p> <p>(1) 社会的課題としての孤独や孤立の実態を把握するため、関連文書等の調査を行う。また、特に児童生徒の自殺の実態についてもその要因などを正確に把握するために文献調査を行う。</p> <p>(2) 公共図書館、社会的包摂、居場所、自殺等をキーワードに関連する先行研究について調査を行う。</p> <p>(3) 社会的課題としての孤立や孤独、児童生徒の実態を把握した上で、県内の公立図書館における課題について現場職員との討議を行う。</p> <p>2. 無記名アンケート調査</p> <p>上記討議の上で、県内の図書館利用者に対して世帯構成や利用目的等のアンケート調査を実施する。項目の詳細については現場職員との検討の上で決定する。</p> <p>3. ヒアリング調査</p> <p>居場所としての公共図書館を実践する先進自治体を訪問し、その活動等についてヒアリング調査を行う。</p> <p>4. 調査結果の公表</p> <p>(1) 地域問題研究所の研究交流集会で調査結果を報告する。</p> <p>(2) 地域問題研究所の『地研年報』に調査結果の報告書を掲載する。</p>
備考	
	<p>コーディネーター（研究員）はこれまでに下記の論考を公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年（共著）『なぜ母親は娘を手にかけてのか－居住貧困と銚子市母子心中事件』旬報社。 ・2019年「高齢期における自殺の現状と課題」日本医療総合研究所『国民医療』No.344。 ・2023年「『いのちとくらしを守るなんでも電話相談会』の3年間を振り返る－相談支援現場から社会保障の再構築をめざして－」三重短期大学生生活科学研究会紀要『みえ生活科学研究』No.2。

【研究・研修計画書】②

テーマ			
「個別避難計画」策定の課題の検証 地域福祉を基盤とした防災を考える			
コーディネーター			
武田 誠一			
テーマ解説			
<p>現在、各自治体で個別避難計画の策定が進んでいる。しかし、国によると2023年10月時点で個別避難計画を全部策定済自治は151（8.7%）と低調である。一方、個別避難計画の策定に関わる自治会・自主防災組織など地域住民からは、地域のつながりの希薄化、高齢独居世帯の増加など課題が指摘されている。</p> <p>本研究では、個別避難計画策定で明らかになった課題を共有し、今後の対策を検討していく。</p>			
研究計画等			
<ul style="list-style-type: none">・ 個別避難計画の策定状況の情報共有・ 連携機関との関係構築方法の情報共有・ 個別避難計画策定時の課題の情報共有・ 住民へのアンケート調査・ 住民へのヒアリング調査・ 他自治体への視察調査・ 研修成果のとりまとめ・ 成果報告			
備考			
自治体研修生の成果報告は三重短期大学地域問題研究所の「研究交流集会」でパネリストとして報告してもらい、招聘講師を交えたパネルディスカッションとして開催する。			

(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、令和元年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 水曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 教授 石原洋介
- ③ 受講者数 44名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	10月1日 (火)	オリエンテーション、津市の概況、防災について	法経科 教授 石原 洋介 危機管理部 【防災室 特命参与 竹内 主信】
2	10月8日 (火)	津市の政策について	政策財務部 【政策課 政策担当主幹 東谷 竹雄】
3	10月15日 (火)	津市の財政について	政策財務部 【財政課 財政担当主幹 北川 圭太郎】
4	10月22日 (火)	津市シティプロモーション	政策財務部 【広報課 シティプロモーション担当主幹(兼) 広報担当主幹 渡邊 孝史】 【広報課 シティプロモーション担当副主幹 今城 茉莉】
5	10月29日 (火)	都市計画について	都市計画部 【都市政策課 調整・企画管理担当主幹(兼) 都市計画・景観担当主幹 駒田 直紀】
6	11月5日 (火)	参加と協働のまちづくりについて	市民部 【地域連携課 調整・広聴相談担当主幹(兼) 対話連携担当主幹 瀬古 卓弘】
7	11月12日 (火)	津市の教育について	教育委員会事務局 【教育推進担当参事(兼) 学校教育課長 松本 幸也】
8	11月19日 (火)	津市の福祉について	健康福祉部 【こども家庭センター長(兼) こどもの居場所づくり担当副参事 落合 勝利】

9	12月3日 (火)	選挙について、 津市議会傍聴にむけて	選挙管理委員会 【選挙管理委員会 事務局次長 川村 能大】 法経科 教授 石原 洋介
10	12月10日 (火)	文化・スポーツについて	スポーツ文化振興部 【スポーツ振興課長 後藤 伸幸】 【文化振興課長 林 桂子】
11	12月17日 (火)	産業振興(農林水産業) について	農林水産部 【水産振興担当主幹 谷口 修】 【基盤整備計画担当主幹 田辺 隆志】
12	12月24日 (火)	産業振興(商工業/観光) について	商工観光部 【ビジネスサポートセンター次長(兼)企業誘致課長 今井 博之】 【ビジネスサポートセンター次長(兼)経営支援課長 杉山 美紀】
13	1月7日 (火)	環境行政について	環境部 【環境事業課 調整・管理担当主幹 山本 昌孝】 【環境施設課 ごみ焼却・し尿処理施設担当副参事 (兼)西部クリーンセンター所長・クリーンセンターおおたか所長・ 安芸・津衛生センター所長・調達契約課設計審査 担当副参事 今井 直樹】
14	1月14日 (火)	自治体経営(市長)	市長 前葉 泰幸
15	1月21日 (火)	議会見学(視聴)	

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱依頼元	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	相川 悠貴	国立大学法人三重大学	「スポーツ健康科学 B」非常勤講師	令和 6 年 10 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
2	相川 悠貴	NPO 法人 日本スポーツ栄養学会	研究誌編集委員会委員	令和 5 年 11 月 15 日 ～令和 7 年 8 月 31 日
3	相川 悠貴	NPO 法人 日本スポーツ栄養学会	NPO 法人スポーツ栄養学会評議員	令和 6 年 9 月 1 日～ 令和 8 年 8 月 31 日
4	相川 悠貴	岐阜市立女子短期大学	「栄養管理論」「解剖生理学」非常勤講師	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日
5	浅野 和也	名城大学	「企業の経営」非常勤講師	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 9 月 13 日
6	浅野 和也	名城大学	「事業のマネジメント」非常勤講師	令和 6 年 9 月 14 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
7	浅野 和也	三重労働局職業安定部	「若年者地域連携事業の実施に係る協議会」委員	承認日～ 令和 7 年 3 月 31 日
8	浅野 和也	三重労働局職業安定部	「三重県地域職業能力開発促進協議会」委員	承認日～ 令和 7 年 3 月 31 日
9	阿部 稚里	三重県教育委員会	令和 6 年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」審査委員長	令和 6 年 9 月 10 日～ 令和 6 年 11 月 30 日
10	飯田津喜美	公益社団法人 三重県栄養士会	公益社団法人三重県栄養士会スポーツ栄養委員	令和 5 年 5 月 27 日～ 令和 7 年度定時総会
11	飯田津喜美	公益財団法人 三重県スポーツ協会	(公財)三重県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会委員	兼業許可日～令和 8 年 6 月定時評議員会終結日
12	飯田津喜美	榊原の地域振興を考える会	「榊原地域の魅力創出のための調査研究連携事業実行委員会」委員	就任日～ 令和 7 年 3 月 31 日
13	大畑 智史	三重県出納局	三重県政府調達苦情検討委員会委員	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日
14	小野寺一成	津市都市計画部	エリアプラットフォーム「大門・丸之内未来のまちづくり」オブザーバー	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
15	小野寺一成	津市建設部	津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議会員	令和 5 年 9 月 13 日～ 令和 7 年 9 月 12 日

16	小野寺一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会委員	委嘱日より2年間
17	小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和6年1月1日～ 令和7年12月31日
18	小野寺一成	津市市民部	市民活動推進事業対象事業選考懇話会委員	令和6年3月～令和7年5月(令和6年度事業の期間)
19	小野寺一成	三重県公共事業 総合推進本部事務局	三重県公共事業評価審査委員会委員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
20	小野寺一成	明和町まちづくり戦略課	明和町都市計画審議会委員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
21	小野寺一成	三重県県土整備部	三重県開発審査会委員	令和6年9月14日～ 令和8年9月13日
22	小野寺一成	津市市民部	津市市民活動推進事業補助金交付対象事業選考懇話会委員	就任日～ 令和7年3月31日
23	鎌塚 有貴	三重県環境生活部	三重県私立学校審議会委員	令和5年2月1日～ 令和9年1月31日
24	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市情報公開審査会委員	令和5年10月1日～ 令和7年9月30日
25	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市行政不服審査会委員	令和5年10月1日～ 令和7年9月30日
26	鎌塚 有貴	鈴鹿亀山地区広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会	令和5年10月1日～ 令和7年9月30日
27	鎌塚 有貴	三重県環境生活部 廃棄物対策局	三重県自動車廃物認定委員会委員	令和5年12月1日～ 令和7年11月30日
28	鎌塚 有貴	亀山市総務財政部	亀山市行政不服審査会委員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
29	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会委員	令和6年8月20日～ 令和8年8月19日
30	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	令和6年11月10日 ～令和8年11月9日
31	鎌塚 有貴	鈴鹿亀山地区広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員	令和3年10月1日～ 令和7年3月31日
32	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	令和4年1月15日～ 令和7年3月31日
33	鎌塚 有貴	愛知大学	「憲法学 TC」「法学概論 T」非常勤講師	令和6年9月20日～ 令和7年3月31日

34	鎌塚 有貴	中部大学	「日本の憲法」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日
35	川上 哲	国立大学法人三重大学	「政策過程論/特殊講義政策過程論」非常勤講師	令和5年10月1日～ 令和6年3月31日
36	川上 哲	国立大学法人三重大学	「行政学/特殊講義行政学」非常勤講師	令和6年10月1日～ 令和7年3月31日
37	川上 哲	三重県立看護大学	「保健福祉行政論」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和6年9月30日
38	川上 哲	松阪市議会	松阪市議会議員定数等の在り方調査会委員	令和6年7月上旬～ 令和6年10月末日
39	川上 哲	津市市民部	津市市民課窓口等業務プロポーザル方式審査委員会外部委員	委嘱日～ 令和6年12月27日
40	北村 香織	三重県総務部	三重県行政不服審査会委員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日
41	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県障害者介護給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日
42	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県発達障害者支援地域協議会委員	任命日～ 令和7年11月30日
43	北村 香織	学校法人高田学苑 高田短期大学	「障害者のくらし」非常勤講師	令和6年10月1日～ 令和7年3月25日
44	北村 香織	鈴鹿大学短期大学部	「社会福祉」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和6年9月30日
45	北村 香織	津市市民部	津市国際交流推進基金運営委員会委員	令和6年5月1日～ 令和8年4月30日
46	北村 香織	三重県雇用経済部	三重県障がい者雇用推進協議会委員及び三重県障がい者雇用推進協議会運営議員	許可日～ 令和7年3月31日
47	北村 香織	桑名市保健福祉部	桑名市地域自立支援協議会委員	委嘱日～ 令和7年3月31日
48	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会専門部会員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
49	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会審査部会員	令和5年1月1日～ 令和6年12月31日
50	木下 誠一	津市都市計画部	津市景観アドバイザー	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日
51	木下 誠一	津市都市計画部	津市景観審議会委員	令和5年7月1日～ 令和7年6月30日

52	木下 誠一	三重県県土整備部	松阪あゆみ特別支援学校新館棟建築工事設計業務委託に係るプロポーザル方式技術審査委員会委員	許可日～ 令和 6 年 3 月 31 日
53	木下 誠一	公益財団法人三重県建設技術センター	公益財団法人三重県建設技術センター 理事	令和 5 年 6 月 15 日～ 令和 7 年度(定時評議員会終結時まで)
54	木下 誠一	松阪市建設部	松阪市景観アドバイザー	令和 5 年 11 月 1 日～ 令和 7 年 10 月 31 日
55	木下 誠一	尾鷲市教育委員会	尾鷲市体育文化会館及び中央公民館耐震・長寿命化工事実施設計業務プロポーザル選定委員会委員	許可日～ 令和 6 年 10 月 30 日
56	柏崎早陽子	津市教育委員会 青少年センター	津市青少年問題協議会委員	令和 6 年 10 月 1 日～ 令和 8 年 9 月 30 日
57	駒田 亜衣	公益社団法人 三重県栄養士会	公益社団法人三重県栄養士会 理事	令和 5 年 5 月 27 日～ 令和 7 年度定時総会
58	駒田 亜衣	公益社団法人 三重県栄養士会	公益社団法人三重県栄養士会生涯教育委員	令和 5 年 5 月 27 日～ 令和 7 年度定時総会
59	駒田 亜衣	津市食生活改善推進協議会	「令和 6 年度津市食生活改善推進員リーダー研修会」講師	令和 6 年 9 月 3 日 9 時 30 分～12 時
60	駒田 亜衣	三重県津保健所	令和 6 年度津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	令和 6 年度第 1 回開催日(令和 6 年 7 月 8 日)から 1 年間
61	高橋 彩	四日市市市民生活部	四日市市市民協働促進委員会委員	令和 5 年就任の日～ 令和 7 年 3 月 31 日
62	高橋 彩	公益社団法人 大谷保育協会	「保育心理士資格取得講座(名古屋会場)」講師	令和 6 年 6 月 8 日
63	武田 誠一	津市健康福祉部 介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委員	令和 3 年 10 月 1 日～ 令和 6 年 9 月 30 日
64	武田 誠一	社会福祉法人 津市社会福祉事業団	津市社会福祉事業団評議員	令和 3 年 6 月 24 日～ 令和 7 年定時評議員会終結の時
65	武田 誠一	三重県子ども・福祉部	三重県障害者介護給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
66	武田 誠一	松阪市介護保険課	松阪市福祉有償運送運営協議会委員	令和 5 年 6 月 1 日～ 令和 7 年 5 月 31 日
67	武田 誠一	社会福祉法人あゆみ	社会福祉法人あゆみ理事	令和 5 年 6 月定時評議員会終了日～令和 7 年 6 月 30 日

68	武田 誠一	社会福祉法人 津市社会福祉協議会	津市地域福祉活動計画策定推進委員	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日
69	武田 誠一	社会福祉法人 三重県共同募金会	津市共同募金委員会審査委員	委嘱日～ 令和7年3月31日
70	武田 誠一	学校法人新潟福祉医療 学園日本こども福祉専門 学校	「ソーシャルワーク演習(専門)」 「保健医療と福祉」「保健医療サー ビス」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日
71	武田 誠一	皇學館大学	「貧困に対する支援」「公的扶助論」 非常勤講師	令和6年9月21日～ 令和7年3月31日
72	武田 誠一	三重県子ども・福祉部	三重県聴覚障害者支援センター指 定管理者選定委員会委員	令和6年7月1日～ 令和7年1月31日
73	武田 誠一	津市健康福祉部 介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委 員	令和6年10月1日～ 令和9年9月30日
74	武田 誠一	一般社団法人みえ障害 者の親なきあと相談室	「障がいのある子の親なきあとの 備え」講師	令和7年3月6日 13時00分～16時30分
75	田添 篤史	三重県農林水産部	「三重県地方卸売市場運営協議 会」委員	令和4年7月1日～ 令和6年6月30日
76	田添 篤史	京都大学大学院 経済学研究科	「Introduction to East Asian Economies」非常勤講師	令和6年10月1日～ 令和7年3月31日
77	田添 篤史	三重県農林水産部	「三重県地方卸売市場運営協議 会」委員	令和6年7月1日～ 令和8年6月30日
78	田中 里美	三重県総務部	三重県公益認定等審議会委員	令和6年4月1日～ 令和8年4月30日
79	田中 武士	津市健康福祉部	津市福祉有償運送運営協議会委員	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日
80	田中 武士	松阪看護専門学校	「社会福祉」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和6年9月30日
81	田中 武士	四日市看護医療大学	「健康社会要因論」「社会医療福祉 論」非常勤講師	令和6年9月16日～ 令和7年3月31日
82	田中 武士	一般社団法人 三重県社会福祉士会	三重県地域生活定着支援センター 運営委員会 委員	令和6年7月1日～ 令和7年3月31日
83	田中 武士	四日市市健康福祉部	四日市市障害者差別解消支援地域 協議会委員	令和6年11月1日～ 令和8年10月31日
84	田中 武士	津市市民部	津市人権施策審議会委員	令和7年1月10日～ 令和9年1月9日
85	田中 武士	三重県民生委員児童委 員協議会	「三重県民生委員児童委員ブロッ ク別研修会高齢者福祉」講師	令和7年2月25日 13時40分～14時40分

86	照井 遥瑛	愛知大学	「物権法」非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和6年9月19日
87	照井 遥瑛	愛知大学	「担保物権法」非常勤講師	令和6年9月20日～ 令和7年3月31日
88	照井 遥瑛	南山大学	「民法A」「民法B」非常勤講師	令和6年9月16日～ 令和7年3月31日
89	西川 昇吾	三重県総務部	三重県行政不服審査会委員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日
90	西川 昇吾	三重県雇用経済部	第47期三重県労働委員会委員	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日
91	西川 昇吾	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化委員会委員	令和4年6月26日～ 令和6年6月25日
92	西川 昇吾	三重労働局	第53期三重地方最低賃金審議会委員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日
93	西川 昇吾	三重県雇用経済部	第48期三重県労働委員会委員	令和6年5月1日～ 令和8年4月30日
94	西川 昇吾	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化委員会委員	令和6年6月26日～ 令和8年6月25日
95	服部 知美	伊勢市教育委員会	伊勢市学校給食運営委員会委員	委嘱日～ 令和7年3月31日
96	服部 知美	津市健康福祉部	「津市特定保健指導研修会・説明会」講師	令和6年7月25日
97	古畑 淳	東郷町総務部	豊明市、日進市及び東郷町における行政不服審査会委員	承認日～ 令和7年3月31日
98	古畑 淳	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	社会福祉士及び精神保健福祉士試験員	令和6年5月1日～ 令和8年4月30日
99	村井美代子	津市危機管理部	津市国民保護協議会委員	令和4年8月1日～ 令和6年7月31日
100	村井美代子	公益財団法人 三重県文化振興事業団	公益財団法人三重県文化振興事業団評議員	令和5年6月28日～ 令和9年度定時評議員会
101	村井美代子	三重県総務部	県民功労者選考委員会委員	令和5年8月1日～ 令和9年7月31日
102	村井美代子	内閣府 男女共同参画局総務課	男女共同参画推進連携会議議員	令和5年8月16日～ 令和7年8月15日
103	村井美代子	三重県政策企画部	若者の県内定着・人口還流に向けた産学官連携懇話会委員	承諾日～ 令和7年3月31日

104	村井美代子	文部科学省高等教育局	大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）委員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
105	村井美代子	鹿児島県総務部	魅力ある県立短期大学づくり検討委員会	承諾日～ 令和7年3月31日
106	村井美代子	津市危機管理部	津市国民保護協議会委員	令和6年8月1日～ 令和8年7月31日
107	笠 浩一朗	津市総務部	津市基盤情報ネットワークシステム更新業務、運用保守業務等に係るプロポーザル方式審査委員会委員	就任日～ 令和6年12月28日
108	笠 浩一朗	津市教育委員会	津市図書館情報システム更新及び保守・運用サポート等業務プロポーザル方式審査委員会委員	就任日～ 令和6年9月30日

5 地域の大学との連携

三重大学やコンソーシアムみえとの連携により、地域の大学の講義に本学学生が参加した。

(1) 三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学生物資源学部の講義を本学学生が受講し、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア 農場コース【生物資源学A】

- ① 月 日：令和6年8月28日（水）～30日（金）
- ② 内 容：「土は生きている」をテーマに、水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などの農や食について学んだ。

イ 演習林コース【自然科学概論3】

- ① 月 日：令和6年9月18日（水）～20日（金）
- ② 内 容：「森は生きている」をテーマに、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して、林業の実態と林産加工の実践について学んだ。

(2) コンソーシアムみえとの連携 単位互換科目

三重県における社会的事象に対する理解を深めることを目的に、コンソーシアムみえの単位互換科目を本学学生が受講し、他大学の学生とも交流を深めた。

ア 食と観光実践【全学共通特別講義a（四日市大学）】

- ① 月 日：令和6年9月下旬、10月5日（土）、20日（日）、11月17日（日）、12月1日（日）、15日（日）
- ② 内 容：三重県における社会的事象（観光客誘致、インフラ整備、事業継続性など）を学び、関連する諸分野の知識を統合することで、理想的な地域の有り様を探究した。

イ 次世代産業実践【現代社会理解実践1（三重大学）】

- ① 月 日：後期集中講義
- ② 内 容：三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、デジタルツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行った。

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に31名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は21名であった。

(1) 地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており登録学生数は46名であった。

ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃

- ① 日 時 令和6年5月25日(土) 午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 18名(学生11名、教職員7名)



(2) 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生21名が新たに任命され、津市消防団学生機能別団員訓練などの訓練や、津市消防本部が主催する消防出初式に参加した。



(入団式)

(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地でも予想されることから、学生、教職員及び地域住民の方合わせて約230名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演、消火器の使用、煙体験ハウス体験などを行った。

- ① 日 時 令和6年4月25日(木) 午前10時～午後1時
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター(祝祭広場)



(起震車)



(煙体験ハウス)



(AED 実習)



(消火器体験)



(屋上避難)



(徒歩避難訓練)

(4) 美化デー

- ① 日 時 令和6年11月14日(木) 12時30～13時30分
- ② 内 容 市が実施する市民清掃デーにならい、三重短期大学「美化デー」として時期を入試直前に、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③ 参加数 学生4名・教職員16名 計20名



(5) 榊原の地域振興を考える会との連携

- ① 期 間 令和6年5月～令和7年3月
- ② 内 容 津市榊原地区の地域活性化の取り組み活動として、郷土料理レシピ開発に連携し、榊原地区の調理団体が調理した郷土料理の試食・意見交換を経て、食メニュー開発に対する助言指導を行った。。
- ③ 参加数 食物栄養学科 講師 飯田津喜美



Ⅱ 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

体育施設（体育館）については、ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの包括連携協定締結により、協定内容に準じた体育施設の開放を行った。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、祝日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、 毎月月末、その他館長の定める日。 ※1月と7月は学外利用者への貸出は行っていません。
利用資格	18歳以上の津市在住・在勤・在学者。それ以外の方は館内閲覧のみ可能。

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	未登録閲覧者数
令和6年4月	1	1
5月	0	0
6月	1	1
7月	0	0
8月	2	0
9月	1	1
10月	3	0
11月	0	2
12月	3	1
令和7年1月	0	0
2月	2	0
3月	0	1
合計	13	7

(2) 体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00～21:00		
使用料 (別途、夜 間照明料 要)	体育館	9:00～18:00	1時間につき 500 円
		18:00～21:00	1時間につき 750 円
	テニスコ ート	9:00～18:00	1時間につき 100 円 (一面につ き)
		18:00～21:00	1時間につき 100 円 (一面につ き)
	グラウンド	9:00～18:00	1時間につき 1,000 円
		18:00～21:00	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成さ れた団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を 提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコ ート	グラウンド
令和6年 4月	3	10	0	0
5月	2	17	0	0
6月	1	12	0	0
7月	0	14	0	0
8月	0	16	0	0
9月	1	13	0	0
10月	0	17	0	0
11月	0	17	0	0
12月	0	13	0	0
令和7年 1月	0	10	0	0
2月	0	10	0	0
3月	0	10	0	0
合 計	7	159	0	0

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

令和6年度は、次のような研究が行われた。

【 2024年度 研究員 申請一覧 】

●研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
田中 武士	いのちを守る居場所としての公共図書館機能に関する研究	<p>2015年8月末、鎌倉市図書館の職員によるTwitter（現X）への投稿が話題となった。その内容は、「学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館にいらっしやい」などと呼びかけるもので、そのメッセージへの賛意を示す反応が多くあった。これは長らく児童生徒（小中高生）の国内の自殺者数が8月に最も多くなる実態を踏まえてのものであると思われるが、身近にある公共図書館が子どもの居場所の一つとなりうると認識されている可能性を示すものであろう。現在、学生・生徒等（小中高生、大学生、専門学校等すべて）の自殺の実態はますます深刻化している。自殺に至る要因は複合的あるが、孤立や孤独など主観的、個人的要因とされがちなものも社会環境との関係性を無視することはできない（「健康の社会的決定要因」）。</p> <p>そこで本研究では、現代社会における孤立や孤独というキーワードを念頭に置き、居場所としての公共図書館機能の可能性について追究する。また、政策研究・研修の一環として行う本研究では、社会における孤独や孤立の実態を把握した上で、公共図書館が地域の中でどのような場となり得る可能性があるのか、社会的包摂の視点から検討する。そしてそのためには、現場職員との共同による調査・研究活動が不可欠である。</p>

相川 悠貴	ウェアラブル生体センサを用いた日常の体調変動の予測	<p>【背景】近年、身体に着用しながら継続的に心拍数や温度を測定することができる機器が発達してきた。その機器により、即時の体調評価が可能になってきたが、まだ予測に用いるまでの利用方法が発展していない。</p> <p>【目的】ウェアラブル生体センサにより採取した生体データを用いて、日常の体調変動予測方法を作成することである。</p> <p>【方法】対象者に対し、約4か月間の継続測定を行う。測定期間中、対象者はウェアラブル生体センサを着用し、継続的な生体データを入手する。加えて、生活活動と体調を毎日記録する。</p> <p>【予想される結果】体調不良が生じる際の、生体データの特異的な変化を発見する。</p> <p>【本研究の意義】体調不良の兆候が生じた際、事前に休養を取るよう進言できる知見が得られる。それにより、体調不良による学業や勤務の欠席削減に繋がる。これは、本学学生や三重県内生徒の学力向上や、三重県内勤労者の労働生産向上に繋がる。</p>
大畑 智史	三重県の関西地域との連携方法について	<p>日本各地において地方創生の議論が活発であるが、この議論における広域連携の視点は重要性を増すようになってきている。人口減少本格化などの問題を抱える三重県の活性化のため、設立されて10年以上経過した関西広域連合への正式参加などの視点を考慮し、三重県の関西地域との従来の連携方法のあり方を再検討すべきだと考えられる。本研究では、各産業の特徴、ICTシステム活用、税制優遇措置活用、補助金活用などの視点を考慮して、人口減少問題本格化などの問題を抱える三重県の活性化につながるような、本県のその連携方法のより良いあり方を分析することとする。当該分析は、三重県の「南北問題」解消などの三重県の地方創生の議論の際に役立つと考えられる。</p>

<p>照井 遥瑛</p>	<p>複数不法行為者に対する連帯責任の正当化根拠に関する研究—アメリカ不法行為法における因果関係論を手掛かりとして—</p>	<p>民法 719 条 1 項は、複数主体による不法行為（「共同不法行為」）を規律する規定である。同条は、複数の加害者間に行為に関する何らかの関連共同性があることを要件として、加害者各自が被害者の全損害について連帯責任を負う旨規定する。同条の適用を巡っては、四日市公害訴訟を主な機縁として、複数加害者間の関連共同性の判断基準を巡って様々な解釈・議論が判例・学説上盛んに展開され、複雑な様相を帯びてきたという経緯がある。</p> <p>現在、共同不法行為論は我が国の民法学における難問の一つと評されているが、その難問の根源は、共同不法行為が単独の不法行為（民法 709 条）の因果関係についてのルールの特例であることから、1 対 1 の事実的因果関係をどのように捉えるのかという前提問題に存するのではないかと考えられる。この点について学説は欧米の議論から多くの示唆を得ているが、近時、特にアメリカ法において、因果関係の存否に関する新たな判断基準が主流となりつつある。</p> <p>そこで本研究では、アメリカ不法行為法における事実的因果関係の捉え方に関する最新の議論を手掛かりとして、四日市公害訴訟をはじめ、損害の発生に複数の原因が関係する事例における因果関係論を再考し、民法 719 条における混線とした議論状況のうち、真に向き合うべき法的課題を明晰化したい。</p>
<p>駒田 亜衣</p>	<p>三重県の食状況の推移と地域の課題</p>	<p>これまで三重県では平成 11、16、23、28 年と約 5 年ごとに大規模な「秤量法」による栄養調査が実施され、三重の健康づくり基本計画の評価を行ってきた。令和 4 年の栄養調査はこれまでの方法とは異なり「食物摂取頻度調査法」で実施され、今後もこの方法で評価を行うこととなった。「秤量法」で実施されたこれまでの調査結果の推移を確認するとともに、「食物摂取頻度調査法」の結果と比較し、今後の健康づくり基本計画について考察する。</p> <p>また、「食物摂取頻度調査法」を用いて実施された自治体の調査結果を評価し、その地域の食品および栄養素等摂取量の過不足、課題を明らかにする。</p>

<p>田添 篤史</p>	<p>工場誘致が地域経済に及ぼす影響：熊本への TSMC 進出を事例として</p>	<p>2024年2月24日に熊本で開所式が開かれた TSMC の新工場は、その投資規模の大きさから注目を集めている。工場を誘致することで地域経済を活性化させようとする方法は伝統的なものであるが、それは現代においても意義を持っていると言えるのかを、この事例を元として検討していきたい。この工場の稼働は開始したばかりであるため、工場の本格的な稼働がどのような影響を及ぼすのかは今後の展開を待たなければならないが、工場建設それ自体が地域の経済に対して大きな影響を与えたこと、例えば建設予定地付近の地価が高騰したこと、などが報道されている。</p> <p>本研究では、その地域に居住している人々の職業や所得などの属性によってどのように影響が異なっているのかという点に特に注目して分析を行う予定である。本研究が対象とする事例は熊本県のものであるが、工場誘致による地域活性化という方策は一般的なものであり、将来的に三重県で同様の事例が生じることがあれば参考になると思われる。</p>
<p>高橋 彩</p>	<p>三重県の若年人口の転出とジェンダー意識、キャリア意識との関連</p>	<p>2024年の三重県のジェンダーギャップ指数は、経済分野は47都道府県中46位であり、その理由としてフルタイムの仕事に従事する男女の賃金が男性が32万4200円、女性が23万8700円と格差が大きいことが挙げられている（地域からジェンダー平等研究会、2024）。また共働き家庭で家事・育児などにかかる時間が、女性284分に対して、男性は50分であり、この差も41位である。三重県では進学・就職を機に県外転出する若者・女性が多いことも指摘されている（三重県、2023）。男女の賃金格差は、業種や雇用形態、性役割分業意識など様々な要因があるが、若者のキャリア選択は、自分や親のジェンダー意識によっても影響を受けると考えられる。よって、本研究では三重県内の学校に進学する、あるいは三重県内で就職する、結婚するという若者の選択に、ジェンダー意識がどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的とする。</p>

服部 知美	日本(三重県)における人工甘味料を含有する清涼飲料水販売の実態	<p>人工甘味料はエネルギー量がほとんどないという点で甘味を摂りたい肥満者や糖の過剰摂取防止に寄与する目的で作られた。栄養指導においても砂糖代替甘味料として提案している。また、砂糖の約200倍以上の甘さから少量かつ組み合わせの工夫によって十分な甘さを得ることができるので、低コストの甘味料として工業的にも価値がある。そのために、「ノンカロリー」「微糖」等の表示がある清涼飲料水や嗜好飲料、菓子等の他、甘味料として多くの食品に使用されている。しかし肥満につながる可能性や糖代謝への悪影響が様々に報告されており、WHO(世界保健機関)は、人工甘味料を肥満や糖尿病等疾患の発症予防のために摂取しないよう勧告を発表するなど、世界的に新たな動きが出てきている。ところが日本では、人工甘味料摂取と肥満関連疾患の関連に関する報告はほとんどない。そこでまず基礎調査として、人工甘味料(アスパルテーム・L-フェニルアラニン化合物、アセスルファムカリウム、スクラロース等)を含む清涼飲料水の国内での販売状況を調査する。本研究で販売状況が明らかになれば、栄養指導への活用、人工甘味料摂取状況を基とした三重県内での臨床研究への基礎資料にもなり、ひいては三重県民の疾病予防と健康増進につなげることができる。</p>
北村 香織	相模原市人権条例と相模原障害者殺傷事件～地方都市で人権擁護に取り組むということ	<p>昨年度、相模原障害者殺傷事件について、4点の考察ポイントを設定して研究を進めたが、そのうちの1つ「相模原人権尊重のまちづくり条例の検討」をさらに深化させたいと考えている。2023年11月に相模原人権尊重のまちづくり条例の骨子が発表された。同年3月に発表された相模原市人権施策審議会による答申とはかけはなれた内容となっていることが各方面から指摘されている。地方都市は「人権尊重」についてどのように具体的に取り組むことができるのであろうか。条例の策定過程を再度丁寧に辿ることで、相模原人権尊重のまちづくり条例の特徴を明らかにし、津市における「人権尊重のまちづくり」の参考にできればと考えている。</p>

●奨励研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
武田 誠一	「個別避難計画」策定の課題の検証 地域福祉を基盤とした防災を考える	個別避難計画とは、災害時に避難支援を必要とする人について、個人の状況に合わせて策定する避難行動計画のことである。支援する人や避難先などを明確にし必要な範囲で共有することで、災害時の円滑で迅速な避難を図ることを目的としている。国によると2023年10月時点で個別避難計画を全部策定済自治体は151(8.7%)と低調である。一方、津市では2023年度秋に、個別避難計画の策定対象となる高齢者や障害者に支援の必要性の調査を行い、個別避難計画の策定が必要とした方については、自治会・自主防災組織等を通じて個別避難計画の策定を行っている。しかし、この策定過程で自治会・自主防災組織等担当者からは、地域のつながりの希薄化、高齢独居世帯の増加など個別避難計画策定での課題が浮き彫りになったと指摘されている。本研究では、個別避難計画策定で明らかになった課題を整理し、今後の対策を検討していく。

●特別研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
楠本 孝	地方自治体のヘイトスピーチ対策	国の法律であるヘイトスピーチ解消法は理念法にとどまり、解消に向けた具体的な施策は、地方自治体が地方の実情に合わせて実施することになっている。これを受けて、先進的な自治体のなかに、ヘイトスピーチ対策として、勧告、命令、氏名の公表、公共施設の利用制限、刑事規制などの対策を講じているものがある。こうした取り組みの状況を詳細に検討して、ヘイトスピーチ対策の現況を把握する。

3 令和6年度 津市立三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
1	イギリスの文学や 絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	学長 村井美代子	
2	「赤毛のアン」を 読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事を持って結婚し、母になるアンの姿が描かれます。女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	学長 村井美代子	
3	あらすじで読み直 すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	学長 村井美代子	
4	保育サービスの利 用の仕組みについ て	保育サービスが多様化するなかで、保育の利用の仕組みはどのようになっているのかを解説します。保育所等利用待機児童、子ども・子育て支援新制度、保育サービスの利用調整（入所選考）、保育をめぐる行政争訟などをキーワードに掲げ、保育の法制度についてお話します。	法経科 教授 古畑淳	
5	行政法とはどのよ うな法分野か？	いわゆる六法科目には含まれていませんが、行政法は私たちの社会において重要な役割を果たしている法分野です。行政に関する法（行政法）が私たちの生活にどのような関わりを持っているのかを福祉行政を例にお話します。	法経科 教授 古畑淳	高校生可
6	行政のデジタル化	行政のデジタル化などのデジタル改革が進められています。その本質であるDX（デジタル・トランスフォーメーション）とは何か、またどのように行政のデジタル化と向き合っていけば良いのか、その課題について考えます。	法経科 准教授 川上哲	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
7	東京とは何か？	東京都は日本で唯一の特別な行財政制度を有しています。通常の道府県と比べて何が違うのか。そしてなぜ東京だけが独特の行財政制度を有しているのか。東京一極集中が進む中で、改めて「東京」とは何かを考えます。	法経科 准教授 川上哲	
8	知っておきたい契約に関するルール	民法には私達が実生活でよく遭遇する契約トラブルを解決するためのルールが数多く存在します。お茶を買ったはずなのに袋を開けるとジュースが入っていた、テレビを買ったら画面にひびが入っていた、友人からの儲け話に乗ったらお金を騙し取られてしまった、といったような具体例を挙げながら民法による契約トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生 対応可
9	知っておきたい相続に関するルール	民法には私達がいずれは関わることになる相続についてのルールが数多く存在します。相続分、遺言、相続放棄といった重要なルールを中心に、具体例を挙げながら民法による相続トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生 対応可
10	基本的人権の保障	日本国憲法において保障される基本的人権について、その種類や性質について解説します。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生 対応可
11	選挙権について	国家と市民の関係について、選挙権をキーワードに考えます。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生 対応可
12	ワークルールと権利意識	労働条件の引下げやリストラ、ハラスメントなど、職場での問題が地域の問題の一つとして挙げられます。このような問題に直面した際、立ち往生や泣き寝入りせざるをえない人も、少なくないのでしょうか。本講座では、重要なワークルールと、それを支える権利意識をもつことについて、考えます。	法経科 准教授 西川昇吾	
13	労働組合の活用法	私たちの国の最高法規である日本国憲法は、勤労条件に関する基準を法律で定めること（27条2項）で十分とするのではなく、勤労者の団結権・団体交渉権・団体行動権（28条）をも保障しています。本講座では、労働組合を活用し、自分自身でも、よりよい職場を形成するためのルールについて、考えます。	法経科 准教授 西川昇吾	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
14	死刑制度について	死刑を残すべきか、それとも廃止すべきか。死刑存廃は、いまだ議論され続けている問題です。死刑の執行方法の是非、死刑の代替措置を導入すべきかなどについて考えます。	法経科 講師 柏崎早陽子	高校生 対応可
15	裁判員制度について	成人年齢の引き下げにともない、裁判員に選ばれる対象も18歳以上となりました。裁判員はどのように選ばれるのか、裁判員は何をするのか。刑事法の観点もまじえて解説します。	法経科 講師 柏崎早陽子	高校生 対応可
16	WTO と FTA	世界の貿易ルールを決める WTO（世界貿易機関）は機能不全に陥って久しく、その穴を埋めるように FTA（自由貿易協定）が数多く作られました。TPP をはじめとする FTA は日本の産業と経済にどう影響するのかを解説します。	法経科 教授 石原洋介	
17	日本銀行の異次元金融緩和と円安	2022 年以降、歴史的な円安のため、エネルギー・食料など輸入依存度の高い品目を中心にインフレが進みました。円安の背景には日銀と海外の対照的な金融緩和政策があります。なぜ、日銀の金融政策は欧米と大きな差が出たのかを解説します。	法経科 教授 石原洋介	
18	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生 向け
19	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	
20	税制における ICT 活用	日本でも税制における ICT 活用が本格化してきています。本講義では、そうした ICT 活用に関する、現状と今後の課題とについて、記入済み申告制度、マイナンバー制度、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
21	消費税増税の性質を理解する	消費税増税は日本でもよく議論されています。本講義では、租税負担の公平性の視点からみた消費税増税の性質などのその各種性質を、消費税の歴史、消費税の構造、インボイス制度などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	
22	内部留保の経営分析	近年、企業の内部留保が拡大しています。決算書の読み方の基礎から講義をはじめ、企業の内部留保とは何か？なぜ増加しているのか？研究データとともに解説します。	法経科 教授 田中里美	
23	決算書の読み方	企業の決算書の読み方を講義します。身近な企業の決算書をみんなで読んでみましょう。	法経科 教授 田中里美	高校生 対応可
24	キャッシュ・フロー計算書の読み方	キャッシュ・フロー計算書は、貸借対照表や損益計算書に並ぶ、代表的な計算書の一つです。上場しているような大企業には作成の義務があります。キャッシュ・フロー計算書を読めるようになると、さらに企業のお金の流れがわかります。キャッシュ・フロー計算書の読み方を中心に講義をします。	法経科 教授 田中里美	
25	日本の社会的統合の在り方	どのような社会であれ、その社会が安定するには一定の形で社会全体が統合されている必要があります。日本はどのような形でそれを行ってきたか、そしてどのように変化しているのかをお話します。	法経科 准教授 田添篤史	
26	経済学とは何か	経済学にはいくつかの学派が存在します。それぞれがどのような特徴をもっているのかを、経済学の歴史を振り返りながら解説します。	法経科 准教授 田添篤史	
27	私たちの生活と「働く」こと	現在、労働を取り巻く環境は大きく様変わりしています。生活と密接な関係にある「働く」ことについて変化の推移をたどりながら、問題や課題について考えたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生 対応可
28	経営学とは何か	経営学は主に企業を対象にした学問です。企業活動から見える社会の成長や生活への影響について考えてみたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
29	サービスマーケティング —サービスとは何か—	近年サービス業の増加により、目に見えないサービス商品の提供が増加しています。そこで企業はマーケティング戦略において「サービスとは何か」考える必要があります。サービス業において様々な事例を使って説明していきます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 社会人
30	10代から学ぶパーソナルファイナンス—ライフプランを考えよう—	将来自分はどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかってきます。自分の将来設計を考えながら生活費用にかかわる話をしていきたいと思えます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 向け
31	マーケティング戦略—ブランド論—	皆様がよく手にするブランド品、これはマーケティングでいう商品開発から派生しています。その本来のブランドの意味を説明していきます。また「地域ブランド」と呼ばれているものも取り上げます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 社会人
32	音楽を通してみる ドイツ語の詩	ゲーテの詩をもとシューベルトが作曲した歌曲『魔王』は非常に有名で、音楽の授業で聴いたことがあるかもしれません。しかしこの他にも様々な『魔王』が存在します。この詩と歌曲の成立についての解説と歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたいと思えます。	法経科 准教授 今本幸平	
33	ドイツ詩を通して 見る社会	文学作品には「浮世離れ」したものも多くみられますが、フィクションの世界を描いたように見える作品からも、書かれた当時の社会の様子を読み取ることができる作品もあります。19世紀の詩人ヴィルヘルム・ミュラーの『冬の旅』という連作詩を題材として、当時のドイツ社会について解説します。	法経科 准教授 今本幸平	
34	世界の食事パターンと疾患との関係 について	世界で健康的だと考えられている食事パターンには、地中海食や和食などがあります。世界各国の食事パターン別による疾患との関係について最近の研究成果を示し、より望ましい食事パターンについて考えていきます。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	
35	食事をバランスよく 食べよう！	食事と健康の関係について最近の研究成果を示し、食事の重要性について考えます。さらに食事バランスガイドを使って自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
36	栄養士・管理栄養士とは？	<p>栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。</p> <p>栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学科の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。</p>	<p>食物栄養学科 教授 阿部稚里</p>	高校生 対応可
37	特定健診受診のすすめと地域の健康課題	<p>平成 20 年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約 18,000 名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。</p>	<p>食物栄養学科 教授 駒田亜衣</p>	
38	海外での栄養士活動	<p>開発途上国で JICA 青年海外協力隊の栄養士として過ごした 2 年間の活動を報告します。</p> <p>ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。</p>	<p>食物栄養学科 教授 駒田亜衣</p>	高校生 対応可
39	三重県の食状況について	<p>三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施された県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国とも比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。</p>	<p>食物栄養学科 教授 駒田亜衣</p>	
40	健康のための運動と食事	<p>健康に生活するため、運動と食事は重要です。運動と食事が、脳、筋、脂肪、骨などに及ぼす影響について説明し、身体を強くするために取り組んで頂きたい活動について紹介します。</p>	<p>食物栄養学科 准教授 相川悠貴</p>	高校生 対応可
41	競技力向上のための栄養	<p>スポーツの競技力を向上させるために、栄養は重要です。競技や目指す身体によって、理想の食事や栄養補給方法は異なります。「バランスの良い食事をしましょう。」に留まらないお話をしていきます。</p>	<p>食物栄養学科 准教授 相川悠貴</p>	高校生 対応可
42	骨の健康を守るために	<p>骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話しします。</p>	<p>食物栄養学科 講師 杉野香江</p>	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
43	ロコモを調べてロコモ予防	ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）とは運動器の障害により、移動機能の低下をきたした状態をいいます。ロコモ度テストで年代相応の移動機能を維持できているか確認し、ロコモ予防のための生活習慣について考えます。※体験型の講座のため、会場の広さや参加人数によって実施できない場合があります。	食物栄養学科 講師 杉野香江	高校生 対応可
44	減塩生活のすすめ	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。 試験紙やデジタル塩分計を用いて、普段食されている汁物中の食塩摂取量を推定することで、ご自身の食生活を振り返ってみませんか。	食物栄養学科 講師 飯田津喜美	高校生 対応可
45	保健機能食品を利用してみよう	健康の維持増進の観点から、国の管轄のもと販売されている保健機能食品のうち、主に「特定保健用食品」「機能性表示食品」について概説しながら、レシピ等日常生活での活用方法を提案します。	食物栄養学科 助教 服部知美	
46	健康な食生活を考える	成長期や成人期、高齢期等、ライフステージに合わせた健康へ向けた食生活や生活習慣（運動、飲酒、喫煙、睡眠等）について、幅広くお話しします。また必要に応じて、メタボリックシンドロームと特定保健指導について、事例も交えながら解説いたします。	食物栄養学科 助教 服部知美	高校生も 対応可
47	腸内細菌叢とは？	最近、腸活が話題ですが腸内細菌叢についてどこまで調査がなされているのか、本当に変わるのかを最新の研究結果を踏まえてお話しします。	食物栄養学科 助教 福安智哉	
48	味を感じる仕組み	食べ物の味には5つの基本味（甘味、苦味、うま味、酸味、塩味）があります。これらの味を感じる仕組みについてお話しします。また、基本味以外の味についても最近の研究に触れながら解説します。	食物栄養学科 助教 生田李緒	
49	塩味と減塩	私たちは適切な濃度の塩味は美味しいと感じますが、海水のように高濃度の塩味は美味しいとは感じません。なぜそのように感じるのでしょうか。私たちが塩味をどのように感じているかを解説し、また、減塩の重要性とコツについてもお話しします。	食物栄養学科 助教 生田李緒	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
50	シリーズ高校生のための自己理解・他者理解 Part1 エゴグラムで知る私の強み	エゴグラムの実施とその結果の見方を解説します。自分の考え方や行動パターンの特徴を知って、対人関係にどのように活かせるか考えてみます。(約45分)	生活科学科 生活福祉・心理コース教員	高校生向け
51	シリーズ高校生のための自己理解・他者理解 Part2 人を理解するってどういうこと?	他者の性格や行動を見ただけで、その人を理解したつもりになっていますが、本当にそうでしょうか。事例をもとに、人を理解する視点について考えてみます。(約45分)	生活科学科 生活福祉・心理コース教員	高校生向け
52	シリーズ高校生のための自己理解・他者理解 Part3 良い関係を築くために～アサーションのコツ	人とよい関係を築くには、自分も他者も尊重するコミュニケーションであるアサーションが有効です。日常場面をもとに、どんな声かけをしたら良いか考えて見ます。(約45分)	生活科学科 生活福祉・心理コース教員	高校生向け
53	ユニバーサルデザインのまちづくり	ユニバーサルデザインの考え方を学びながら、誰もが暮らしやすいまちづくりには具体的にどのような方法があるのかを考えます。同時に「障がい」とは何かについても一緒に考察できればと思います。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生 対応可
54	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生 対応可
55	病院で「もうすぐ、退院です」と言われて慌てないために...	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか?	生活科学科 准教授 武田誠一	
56	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで、私達の地域で何が可能か考えてみませんか?	生活科学科 准教授 武田誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
57	人を援助する「私」を知る	地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき、対人援助場面でのコミュニケーションのあり方、心構えなど学びます。 そして、他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	
58	援助のキホンー専門職の援助観を考えるー	この講座は、対人援助の現場で働く方向けに、人を支援する専門職の援助観を考えていくものです。 施設、事業所内での職員研修などを想定しています。	生活科学科 准教授 武田誠一	
59	貧困とは何か	貧困とは単にお金がないことだけを意味するものではありません。身体や心にも大きな影響を与え、社会からの孤立にもつながります。それは仕方のないことなのか。「自己責任」をキーワードに皆さんと一緒に考えます。	生活科学科 准教授 田中武士	高校生 対応可
60	社会保障って何？ ー自分らしく安心して暮らすためにー	私たちの日々の暮らしは、病気や失業などをきっかけに生活が困難になってしまう可能性が常にあります。そのようなときでも、その人らしい生活を保障するのが社会保障制度の役割です。とても大切なこの制度についてやさしく解説します。	生活科学科 准教授 田中武士	高校生 対応可
61	自分はどんな性格なの？ パーソナリティ心理学	パーソナリティテストを用いて、自分自身の性格を測定し、自己理解に役立てます。そうしたテストがどのような理論に基づいて作成されているのかも解説します。	生活科学科 准教授 高橋彩	高校生 対応可
62	「人新世」について考える	「人新世の到来」が、盛んに語られています。それは、6550万年前、恐竜をはじめとする多くの生物種が絶滅した「第5次大量絶滅」が、小惑星衝突にともなう環境変動によって引き起こされ、『中生代』から「新生代」に移行したように、わたしたち人類の活動が、それに匹敵するような地球環境の激変をもたらしつつあることへの懸念からです。人類の現状と未来を考える上で必須のキーワードとなった「人新世」について考えていきます。	生活科学科 教授 南有哲	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
63	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南有哲	高校生 対応可
64	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
65	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
66	住民参加とコミュニティ	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代に、その必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業や公園づくりのワークショップを事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	高校生 対応可
67	都市計画とまちづくり ～持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて～	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。 また、人口減少化時代における持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた取り組みを考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	
68	景観計画とまちづくり	全国各地で都市景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、都市景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としてアーバンデザインの考え方やまちづくりと景観計画について紹介します。	生活科学科 教授 小野寺一成	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
69	コンピュータが人間の言葉を処理する仕組み	近年、ChatGPT のような生成系 AI が注目を集めています。コンピュータがどのように言葉を処理しているのか、文字コードなどの基本的なことから ChatGPT のような最新の技術まで紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可
70	Python を用いた機械学習入門	プログラミング言語 Python を用いて、機械学習を行う方法について紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可
71	人工知能の現状と近い将来	コンピュータの誕生後、人工知能 (AI) の研究が盛んに行われ、何度も AI ブームがありました。社会を大きく変えるほどの影響はありませんでした。しかし、現在の AI ブームは、社会を大きく変えようとしています。今の AI ができること、近い将来起こることについて紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可

2024年度(令和6年度)

津市立三重短期大学地域連携センター年報

令和7年6月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター

〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地

TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647

E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp